

平成21年度（2月期）筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科
心理専攻(前期) 入試問題 専門科目

共通問題

以下の共通問題に解答しなさい。

1. セリグマン (Seligman, M. E. P.) が提唱した学習における準備性 (preparedness) について説明しなさい。
2. 滝の錯視 (water falls illusion) とはどのような現象で、どのような神経基盤が推測されているか述べなさい。
3. ウェイソン (Wason, P. C.) の4枚カード問題 (four-card problem) について、その問題の概要と生じやすい誤答、ならびに誤答が生じやすい理由について説明しなさい。
4. 気質 (temperament) について説明しなさい。
5. 熟達者 (expert) と初心者 (novice) の違いについて説明しなさい。
6. マザリング (mothering) について説明しなさい。
7. 透明性の錯覚 (illusion of transparency) について説明しなさい。
8. 応報戦略 (tit-for-tat strategy) について説明しなさい。

選択問題

以下の選択問題に解答しなさい。 心理臨床コース受験者は、a. ～c. の3問すべてに解答すること、心理基礎コース受験者はa. ～c. のうちから1問のみ選択して解答すること。

- a. パーソナリティ特性のビッグ・ファイブ (Big Five) について説明しなさい。
- b. 系統的脱感作 (systematic desensitization) について説明しなさい。
- c. 広場恐怖 (agoraphobia) の症状について説明しなさい。

以下の選択問題に解答しなさい。 心理基礎コース受験者は、d. ～f. の3問すべてに解答すること、心理臨床コース受験者はd. ～f. のうちから1問のみ選択して解答すること。

- d. 偏相関係数 (partial correlation coefficient) を説明しなさい。
- e. 知能研究史における、スピアマン (Spearman, C. E.) とサーストン (Thurstone, L. L.) の学説上の対立について説明しなさい。
- f. 記憶研究史における、“症例 H. M.” の意義について述べなさい。

平成21年度（2月期）筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科
心理専攻(前期) 入試問題 外国語 【答案用紙は4枚ある】 4枚中の1枚目

（1）次の英文を和訳しなさい。

Two
Western
logicians
reasoned
in any
direction
East
as
who
did

出典：

Buchtel, E. & Norenzayan, A. 2008 Which should you use, intuition or logic? Cultural differences in injunctive norms about reasoning. Asian Journal of Social Psychology, 11, 264-273.

平成21年度（2月期）筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科
心理専攻(前期) 入試問題 外国語 【答案用紙は4枚ある】 4枚中の2枚目

(2) 次の英文を和訳しなさい。

K
child. I
ability
Köhler
goal is

In his f
The do
year-old
push th
joyfully
jective'

He
front o
the req
ing der

House
Wall

G

平成21年度（2月期）筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科

心理専攻(前期) 入試問題 外国語 【答案用紙は4枚ある】 4枚中の3枚目

(3) 次の英文を和訳しなさい。

Clinic
profession
in an effc
and, if ap
inate per
and clien

ce of a
client
icerns
elim-
viewer

It is in
sight. Tho
opmental
and belie

nd in-
devel-
ciases

平成21年度（2月期）筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科

心理専攻(前期) 入試問題 外国語 【答案用紙は4枚ある】 4枚中の4枚目

（4）次の和文を英訳しなさい。

最近の研究は、アジアの国々の若い子供たちは米国，カナダ，そしてニュージーランドに住む子供たちに比べて平均睡眠時間が少ないことを示している。世界17カ国28,287名の新生児や幼児の親を対象に行った研究により，就寝時間，睡眠時間全部，そして，自分たちの子供たちの睡眠問題の捉え方に大きな文化的な違いが見られることが判明した。全体的にアジアの国々の子供たちの就寝時間が一番遅く，全てを合わせた睡眠時間も他に比べて一番短かった。